



写真左：ミツバアケビの雄花
写真右：ミツバアケビの雌花

樹木に絡みついたつるの先に濃い紫色の小さな花が咲いています。ミツバアケビの花です。花には雄花と雌花があり、先端に5ミリメートルほどの小さい花をたくさんつけるのが雄花、1センチメートルほどの花弁状のがく片が3個あるのが雌花です。落葉つる性の植物で、北海道から九州までの山野に生え、陶史の森のネイチャーセンター周辺でも見られます。アケビと同属で、アケビがやや細長い楕円形で5枚の葉なのに対し、ミツバアケビは卵形の葉が3枚で、縁には波形の粗いギザギザがあります。雌花は初夏になると緑色の実が膨らみ、

紫色の小さな花

ーミツバアケビー

教室のご案内

バードウォッチング
(自由参加)

4月28日(日)
5月26日(日)
午前9時～11時

※集合場所は林泉の池堤防

秋になると紫色を帯びて熟てきます。熟れた実が縦にぱっくり割れるため、「開け実」転じて「アケビ」が名前の由来とされています。秋の味覚として食用の果肉となるのは、ぱっくり割れた中にある実です。バナナの果肉のように見える実は柿のように甘いですが、黒く堅い種子がたくさん入っています。実が割れてしばらくたつと、虫や鳥に食べられてしまうため、食べることを目的とする場合は、縦割れする直前を見計らって収穫する方が良いでしょう。今から秋が楽しみです。

美濃陶磁歴史館だより

美濃陶磁歴史館 (☎55-1245)

新しい博物館に生まれ変わります！

44年間多くの方に親まれてきた美濃陶磁歴史館は先月31日をもって休館しました。2028年に新しい博物館として生まれ変わるために、今も着々と準備が進んでいます。その準備の中で、新博物館を身近に感じてもらえるように、やきものをモチーフにしたロゴマークを作りました。このロゴマークを使ったミュージアムグッズができるかも？新しい博物館の開館を楽しみにお待ちください。

